

かわせみ(日高市の鳥)

May 2009

9号

<http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/index.html>

埼玉医科大学

国際医療センターニュース

INTERNATIONAL MEDICAL CENTER NEWS



CONTENTS

- 2P 国際医療センターは、開院3年目に入りました
- 4P 診療科のご紹介：緩和医療科／精神腫瘍科
- 5P 急性呼吸不全「マスクを使った人工呼吸器NPPV」のお話
- 6P はじめまして 国際医療センターの新入職員紹介
- 7P 看護部新採用者オリエンテーションを行いました
- 8P PET検査への薬剤師の関わりと検査を受けるときの注意について
- 9P MRI検査を受ける患者さんへ
- 10P 地域の医療機関の機能についてご存知ですか？
訪問教育の集団での授業が始まりました
- 11P 検査項目について
- 12P 血液浄化部「透析室」が開設されました
6階から患者さんを救出！
- 13P ラーニングセンター(患者図書室)～みんなの医療
情報AからZまで～リニューアルオープンしました！
- 14P 市民公開シンポジウム「命の贈り物：献腎の推進を願って」
- 15P 「第3回市民公開がん医療講座のご報告」
- 16P 祝 全国非血縁骨髄移植1万例、さい帯血移植5千例到達！
～センター玄関に記念植樹を行いました～
紹介・予約制について／面会について

第3回市民公開がん医療講座「乳がんを理解する・乳がんには負けない」※詳細は15P(左：独立法人国立病院機構四国がんセンター名誉院長 高島成光先生、右：タレント 山田邦子さん)

- 基本理念**： 患者中心主義のもと安心して安全な満足度の高い医療の提供をし、かつ最も高度の医療水準を維持する。
- 使命**： 当センターは、埼玉県全域を範囲とし、がん、心臓病に対する高度専門特殊医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供する。
- 基本方針**： 患者中心主義(patient-oriented)を貫き、あらゆる面で“患者にとって便利”であることを主眼とし、患者ひとりひとりにとって最も適切な医療を提供する。



当センターは、紹介・予約制です。

Saitama Medical University International Medical Center

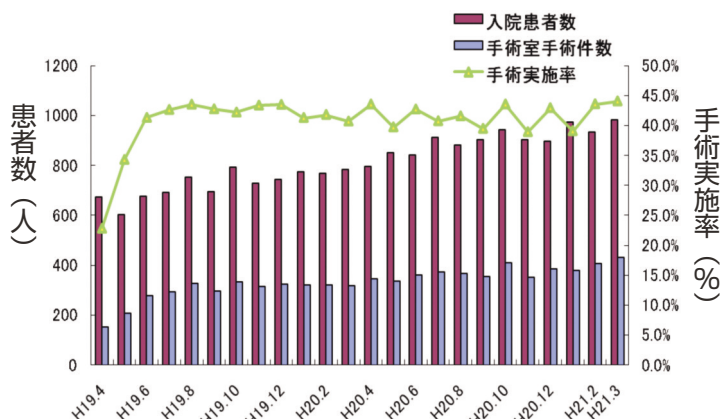
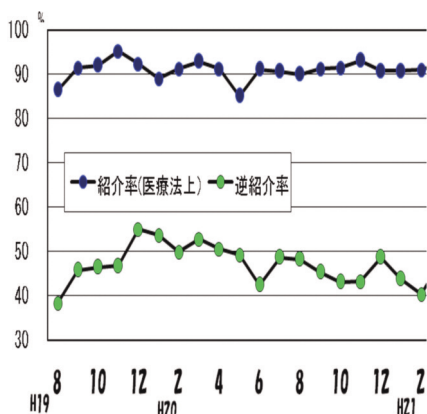
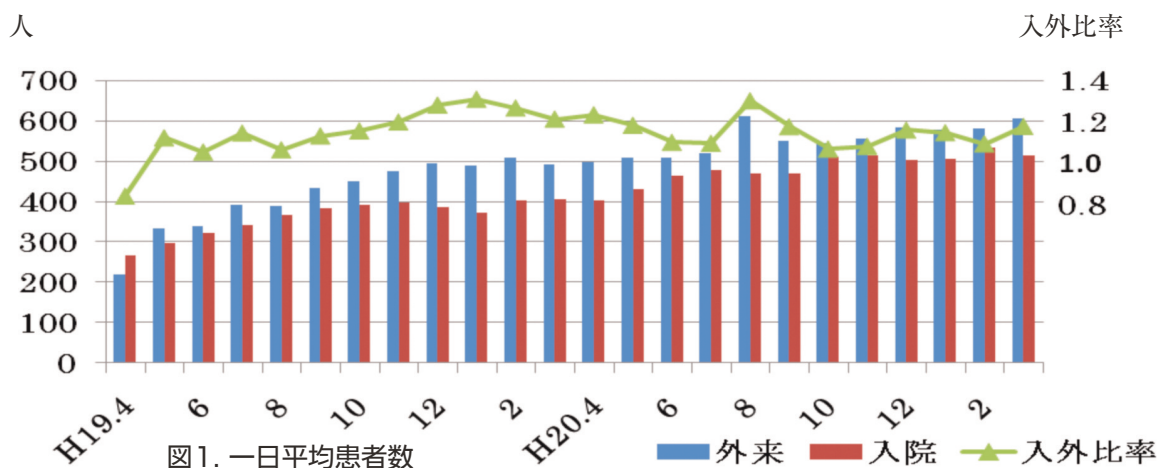
国際医療センターは、開院3年目に入りました

学校法人埼玉医科大学 専務理事 尾本 良三

埼玉医科大学国際医療センターは、平成19年4月1日に開院してすでに2年が経過いたしました。国際医療センターは「埼玉県全域を範囲としがん、心臓病に対する高度専門特殊医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供する」という特別の使命を持ってスタートしました。国際医療センターは、大きく分けて包括的がんセンター、心臓病センター、救命救急センターで構成されております。この3つのセンターは互いにきわめて緊密に連携しております。病棟構成も特殊な心臓ICU、脳卒中ICU、無菌室等は別として大部分は混合ベッドとして効率よく運用されております。

開院時は350床、同年8月に430床、開院1年後の平成20年4月には540床を稼働させてまいりました。開院3年目の平成20年4月からはいよいよ全床600床をオープンすることが出来ました。これも一重に多くの方々の特別のご指導、ご援助のおかげであります。以下はこの2年間の経過をごく簡単に医事データ等をもとにご報告させていただきます。

はじめに、1日平均の外来患者数と入院患者数を示



入院患者数の約40%が中央手術部を利用した手術治療を受けております。手術治療の比率の高いこのデータは大変ユニークなもので、国際医療センターでは色々と難しい症例を一生懸命治療させて頂いている実例を示しているように思われます。一般的に血液腫瘍の治療期間は相当に長いものです。また、無菌室を使用しての骨髄移植も行われています。大変に重症な心臓手術も多いです（平成20年1月～12月の1年間で体外循環を使用した成人心臓外科272例、小児心臓外科130例）。一方、X線カテーテル室などを使用するカテーテル血管内手術は、多くの領域で活発に行われております。

救命救急センターについて報告させていただきますと、開院以来の2年間で8,850名の救急患者に対応いたしました。救急車による搬送は8,155名（月平均355名）でした。入院を要さない軽症の救急患者は、全体の40%を占めておりますが、地域救急基幹病院として、患者さんの重症度や緊急度を問わず充分の役割を担っております。救命救急センターにいられた患者さんの入院率を見ますと疾病入院は3,182名（54.2%）で、外傷入院は1,152名（38.6%）です。疾病では半数以上の4,334名の方が入院となっております（図4）。

救命救急センターの患者さんはほぼ全県地域から搬

送されており、本年は月平均で400人、年間で5,000人を超えてくることが予想されます。これからも全県を対象とした救命医療の第一線に取り組んで行く決意であります。

ところで、国際医療センターでは、平成20年6月12日に埼玉県で第7番目の救命救急センターとして正式に認可されました。救命救急センターが正式にスタートして以来、更に活発に稼働しております。私たちの救命救急センターでは、今後ますます社会的な責任が重くなるものと考えております。

また、マスコミなどでも大きく伝えられておりましたが、平成21年4月以後には国際医療センターにおける防災ヘリのドクターヘリの運航が早朝・深夜に行われることが決定しております。ドクターヘリは夜間運行が出来ないのですが、国際医療センターでは早朝・夜間に埼玉県防災ヘリが使えることで、埼玉県では初めて早朝・夜間のドクターヘリ的なヘリコプター運用が始まることに決まりました。従来から、川越の総合医療センターのドクターヘリが必要に応じて国際医療センターへ患者の搬送が行われております。ドクターヘリと防災ヘリとがうまくリンクして運用されるのは全国で初めてであります。埼玉県全域の救命医療に一層役立つことが可能になりました。

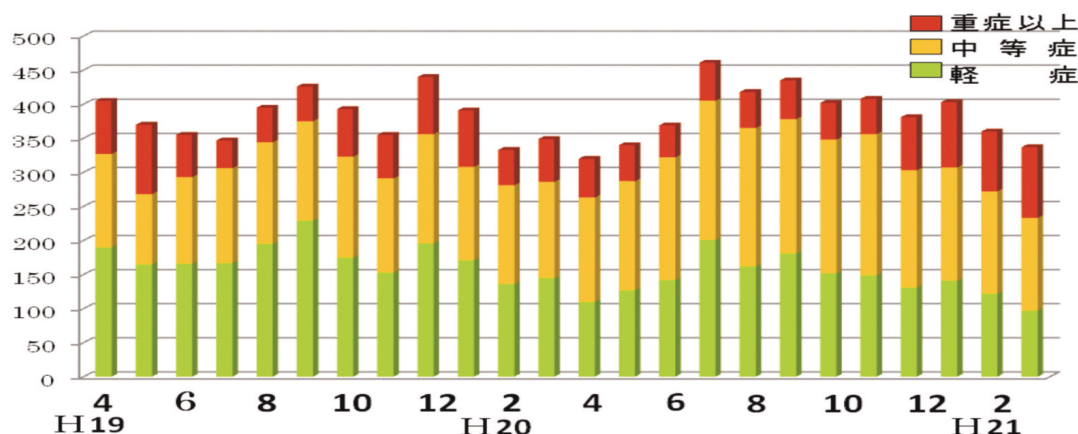


図4. 救急患者総数 (H19. 4～H21. 3)



診療科のご紹介

緩和医療科

ホームページ： http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/division_info/15.html

緩和医療科は2007年4月の当院開院の時に新しく設置された診療科で、医師2名で外来、入院、緩和ケアチームでの診療を行っています。

緩和医療を“がんの末期になって、がんに対する治療ができなくなった時に受けるもの”とお考えの方は、まだまだ多いのではないのでしょうか。もちろん、そのような時期にしばしば緩和医療は必要になりますが、実は、がんに伴う痛みや不安、不眠など心身のいろいろな症状をやわらげる治療が緩和医療であり、がんに対する治療と同様に大切な医療なのです。がんの進み具合やがんに対しての治療を受けているかどうかに関係なく、患者さんがつらいと感じられたらその時が緩和医療を必要とする時なのです。

症状を和らげるということは、例えば、痛いから痛み止めを処方すればそれでいい、という単純なものではありません。もちろん痛みを軽くするには痛み止めが有効ですが、それ以外にもいろいろな角度から痛みに対してアプローチすることが必要です。当科では、依頼される主治医の先生とはもちろんですが、「心」のサポートのプロである精神腫瘍科の医師や心理士、「ケア」のプロである看護師、「薬」のプロの薬剤師、「医療福祉」のプロである社会福祉士（ソーシャルワーカー）、「栄養」のプロの栄養士など、患者さんの状態に合わせて様々なプロと協力し、診療にあたっています。

しかし、特に入院での診療はベッドが空かなければ入れないという大きな制約があります。ですから、

患者さんやご家族のご希望によっては、近隣の、あるいは患者さんの地元の病・医院、診療所、訪問看護ステーションなどと連携し、診療の継続をお願いすることもあります。

私たちはがんに対して直接治療をする主治医の先生と共に、患者さんのつらさを少しでも和らげたいと願っています。どうぞ当科にご相談下さい。その前に、まずもう少し知識を・・・と思われる方は、外来の患者さんはD棟2階の「包括的がんセンター」、あるいはE棟2階の「通院治療センター」の看護師に、入院患者さんは当該病棟の看護師に、まずお声掛け下さい。また、D棟2階の奥にある「がん相談支援センター」に直接お越しいただいても結構です。C棟3階には「ラーニングセンター」があり、緩和医療関係の書籍も増やしているところです。どうぞご利用下さい。きっと何らかのお手伝いをさせていただけると思います。



診療科のご紹介

精神腫瘍科

ホームページ： http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/division_info/16.html

皆様こんにちは。精神腫瘍科と聞いて“何をする科なのだろう”とお思いになる方もいるかもしれません。本日は精神腫瘍科のご紹介をしたいと思います。

がん患者さんは、診断、検査、そして治療の過程のなかで様々なストレスを受けることが知られています。これらストレスから、うつ病などにかかることがあります。そうなりますと心が辛い思いをするばかりではなく、治療意欲の低下などが起きることもあります。このように、がんという病気は身体ばかりでなく、心にも影響を及ぼすことがあるのです。し

かし、これらの症状は適切な精神科的治療で改善することも知られています。

このような医学の領域を精神腫瘍学（サイコオンコロジー）と呼びますが、サイコオンコロジーは、がんの告知が一般的になった1970年代より発展してきた比較的新しい医学の一分野です。日本の大学では私ども埼玉医科大学が、全国に先がけて精神腫瘍科を作りました。がんの包括的な取り組みを目指す当大学の心意気の表れです。

精神腫瘍科は精神腫瘍医3名、心理士1名の4名のスタッフで入院患者さん、外来患者さんに対応してお

ります。がんという病気にかかり、辛い思いをされている患者さんの話をうかがい、必要に応じて投薬も行ないながら、患者さんがよりよい心の状態で治療が受けられるよう対応しています。患者さん同士で話し合いたいという方々に対しては、グループでの診療も行なっております。また、入院患者さんに対しては緩和医療科、看護部と合同で緩和ケアチーム回診も行ない、痛みと同時に心のケアも行っております。

ご家族も看病で辛い思いをされていることが多く、時に治療が必要になる場合もあります。私どもはご家族の精神的な苦悩に対しても対応すべく、外来を設けております（家族外来）。

何かご相談がありましたらお気軽に声をかけてください。少しでもお役に立てば幸いです。



急性呼吸不全:「マスクを使った人工呼吸器NPPV」のお話

救命救急科 准教授 古田 島 太



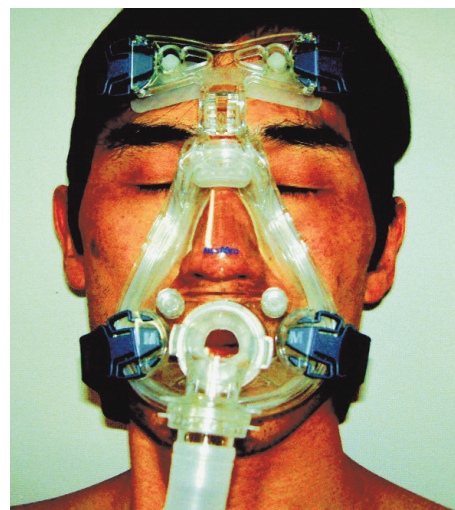
呼吸不全とは、いろいろな原因によって起こる呼吸の異常のことで、体内の酸素が不足した状態、または炭酸ガスの排泄がうまくゆかず、余分に蓄積した状態を表します。経過によって急性と慢性の呼吸不全に分類されますが、重症の急性呼吸不全は、短時間で呼吸状態の悪化が進み、生命にかかわる状況と考えられます。酸素療法や薬物療法を行っても効果がない場合には、人工呼吸療法が選択されます。これまでは、人工呼吸を行う際、口から気管の中にチューブを入れる気管内挿管法や首の表面から気管に通じる穴を開ける気管切開法が行われることが一般的でした。これに代わり、特殊なマスクをバンドで鼻や口に固定して行う人工呼吸療法が非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）と呼ばれるものです。

NPPVの利点は、麻酔薬を使わず、意識のある状態で治療を行えることです。このため、早期の回復、離床、退院が可能であり、人工呼吸療法中に多い肺炎の合併も少ないことが知られています。もっともNPPVには限界があり、意識障害のある方、自発呼吸が停止している方、ショック、急性冠症候群など循環動態が不安定な方、痰が大量にあって、自分で出しづらい方、顔面の外傷や変形のある方には行えず、気管内挿管による人工呼吸療法が選ばれることになります。

急性期のNPPVの適応としてエビデンスが認めら

れているものは、慢性閉塞性肺疾患（COPD）の急性増悪、心不全による肺うっ血、免疫不全の患者さんに合併した急性呼吸不全ですが、日本で多い肺結核後遺症による呼吸不全の急性悪化も良い適応と考えられています。その他には、重症喘息発作、重症肺炎、胸部外傷の呼吸管理などへの応用が期待されています。

患者さんにとって、適応があれば非常にメリットのある治療法ですが、導入に時間と労力を要する治療でもあるので、医療スタッフの熟練や適切な人員配置などが欠かせません。救命救急科では今後、急性期NPPVの体制を整え、適応症例に対しては積極的に行ってゆくことを考えています。



人工呼吸器に使用されるフェイスマスク

はじめまして 国際医療センターの新入職員紹介



研修医

加藤 琢也

今年の4月から国際医療センターで勤務させていただくことになりました加藤です。私は何らかの形で悪性腫瘍と闘える力を身に付けたいと思い、この国際医療センターを志望しました。ご存知の通り、国際医療センターは悪性腫瘍に特化した病院です。ここで研修することにより、その力を身に付けたいと考えています。まだまだ未熟者ですが、諸先輩方から教わる知識、技術を一刻も早く身に付け、自分の血肉とし、患者さんに還元できるよう努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。(写真：まずは健康診断の採血を研修医同士で)



薬剤部

岡村 稔

本年度薬剤師として薬剤部に配属された岡村です。国際医療センターでは病棟にあるサテライトファーマ

シー全てに薬剤師が常時配置され、セントラルファーマシーから薬の供給を受けて病棟活動（服薬指導・混注）を行っています。薬の専門家として患者さんだけでなく、医師、看護師をはじめとする医療スタッフからも頼られる存在となっています。また、患者さんの身近で種々の医療活動をする事により、薬剤師の職能が十分に発揮できるため、とても魅力を感じています。さらに、調剤室においても、より安全な医療を提供できるよう最新機器が導入されています。私たちは大学の勉強を基礎として一生懸命勉強し、一日も早く先輩たちと同様に「頼られる薬剤師」となってお役に立てるように努力致します。そのためにも、私たちはお互いに助け合って仕事に取り組みたいと思いますが、医療人としても、社会人としても新人であり、また未熟な点が多々ありますので、皆様からのご指導をよろしくお願いいたします。



します。

MEサービス部

宮下 真希

臨床工学技士は、日進月歩する医療機器を扱う仕事をしています。患者さんの命に関わる人工心肺装置、ペースメーカー、補助人工心臓、血液浄化装置などの生命維持管理装置の操作は、緊張する仕事であると同時に誇れる仕事です。また、医療機器は院内あらゆる場所に数多く存在するため、毎日巡回し環境面や教育面など総合的な安全管理に気を配っています。他の職種の方々と協力し合い、より良い病院に、より良い職場にしていけたらいいと思います。同期で入った2人とともに1日でも早く一人前の仕事ができるように精一杯頑張ります。まだ右も左も分からない新人ですが、これからどうぞよろしくお願いいたします。

置、ペースメーカー、補助人工心臓、血液浄化装置などの生命維持管理装置の操作は、緊張する仕事であると同時に誇れる仕事です。また、医療機器は院内あらゆる場所に数多く存在するため、毎日巡回し環境面や教育面など総合的な安全管理に気を配っています。他の職種の方々と協力し合い、より良い病院に、より良い職場にしていけたらいいと思います。同期で入った2人とともに1日でも早く一人前の仕事ができるように精一杯頑張ります。まだ右も左も分からない新人ですが、これからどうぞよろしくお願いいたします。



リハビリテーションセンター

武田 智徳

私は、急性期の現場で働きたいと考えていました。また、今まで作業療法の分野では関わりの少なかった心臓リハビリテーションにとても興味がありそれについて勉強をしたい

と思い当院を選びました。個人的な目標としては「カッコいい作業療法士」を目指していきたいと思っています。私の考える「カッコいい作業療法士」とは、治療の知識と技術を有していることはもちろん、患者様の痛みや不安などを理解し受け止められることのできる作業療法士だと考えています。どちらが欠けても「カッコいい作業療法士」にはなれないと思っています。そのために、現場で多くのことを経験、吸収し今後の作業療法を引っ張っていけるようになりたいと思います。



看護部 堀口 敬章

私はこの春、国際医療センターの看護師として就職いたしました。患者さんにこれから看護を提供できる喜びや嬉しさを感じています。その一方、初めての病棟勤務で不安や緊張の連続ですが、患者さんの笑顔や先輩方に温かくサポートして頂き勤務しています。看護師としての必要な知識や技術は未熟ですが、先輩方の熱心な指導のもと、患者さんが安心して安全な医療が受けられるように、専門的な知識や熟練した技術を身につけていきたいと思っています。また、常に優しく思いやりの気持をもって、心のこもった看護を提供したいと思っています。そして、患者さんに信頼していただける看護師を目指していきたいと思っています。

常に責任感をもち、医療スタッフの一員であることを自覚し、初心を忘れることなく、日々頑張っていきたいと思っています。

常に責任感をもち、医療スタッフの一員であることを自覚し、初心を忘れることなく、日々頑張っていきたいと思っています。



看護部 保泉 奏美

春を迎え、国際医療センターでの看護師としての生活が始まりました。夢に見た看護師として、実際に働くことの喜びを感じています。

私の家族が入院した時、看護師さんの機敏な行動と明るい笑顔に憧れを抱きました。私も誰かに勇気や笑顔を与えたいと思いました。

これから看護師として、優しさや明るさを忘れずにいたいと思います。そして、頼りにされる、患者さんを少しでも暖かい気持ちにさせられる、闘病に対する意欲を向上させられる、そんな看護師を目指したいと思っています。常に患者さんに目を向け、耳を傾け、患者さんの気持ちに寄り添った看護をしていきたいと思っています。専門的で高度な医療水準を持つ国際医療センターで働くことは、学ぶ事もとても多いと思います。看護や様々な人との関わりを通して、自分自身も大きく成長していけたらと思います。

看護部新採用者オリエンテーションを行いました

看護部

看護部卒後教育小委員会

今年度、埼玉医科大学国際医療センターでは、96名の看護師が新採用されました。

そして、平成21年3月28・30・31日の3日間、看護部新採用者オリエンテーションが行われました。

オリエンテーションでは、丸木清浩理事長、齊藤啓子看護部長、国際医療センターの松谷雅生病院長、齋藤栄子総看護師長より講義を受け、医療人として自覚を持つこと、仕事を楽しむこと、患者中心の看護の必要性などを学びました。

また医療安全対策や感染対策、医療機器の取り扱いなどの講義を受けることで、安心で安全な質の高い医

療を提供することへの責任の重さと、事務部門や、薬剤部・栄養部など、他職種の役割を知ること、チーム医療の必要性について学びました。

さらに、接遇研修では、社会人としてのマナーやホスピタリティについて学び、30日の午後からは、採血や手洗い、個人防護用具の正しい装着方法について演習を行いました。

3日間で、大変盛りだくさんの内容でしたが、新採用者のキラキラ輝く瞳と、真剣な表情から、看護師として働くことへの希望と決意が感じられました。



講義を受ける新採用者



採血の演習風景

PET検査への薬剤師の関わりと検査を受けるときの注意について

薬剤部

まず、PET検査の内容と放射性薬剤ができるまでを紹介します。

PET検査とは、がんの検査方法の一つです。また、脳などの働きの診断にも用いられます。

日本語では「陽電子放射断層撮影」という意味で、Positron Emission Tomographyの略です。がんは、腫

瘍（できもの）ができたり、体に変化が起きてから見つかったりすることが多く、がん細胞の成長がある程度進んでからでないと発見することができませんでした。しかし、がん細胞自身が光って自分の位置を知らせれば、もっと早い段階で見つけることが可能であるという発想で開発されました。一言で言うと「がん細胞に目印をつける」というのがPET検査の特徴です。

PET検査になぜ薬剤師？

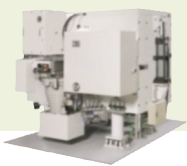
PET検査には ^{18}F -FDGを代表とする放射性（がん細胞を光らせるための）薬剤が必要です。この薬剤を体内に投与し、集まった部位から出る γ 線をPETカメラで検出して、体内の物質の代謝状況を診るのがPET検査です。PET検査に使用される放射性薬剤は放射性同位元素（RI）を用いますが、半減期が短いため、病院内に薬剤製造装置を設置し、合成（調製）とできた薬剤の検定をする必要があります。薬剤師はその特技を生かしてPET検査に必要な放射性薬剤の合成と品質検定を行っています。

使用する放射性薬剤とその目的

^{18}F -FDG	悪性腫瘍の診断	^{15}O - O_2 、 CO_2 、 CO ガス	脳の血流・酸素代謝・血液量
^{11}C -Methionine	脳腫瘍の診断	^{18}F -FMISO（合成予定）	腫瘍に放射線治療が有効か判断
^{11}C -PIB	アルツハイマー病の診断		

PET薬剤ができるまで

サイクロトロン(HM-18)



この機器でプラスの電子を帯びた陽電子（ポジトロン）を放出する放射性同位元素（光る物質）を作ります。



《検査を受けるときの注意事項》

- ・ 検査 4～6 時間以上前から絶食します。
（水またはお茶は取っても構いませんが甘い飲料は避けてください）
- ・ 検査の時に使用した放射性薬剤は 1 日で消えてしまいます。

ホットラボ(薬をつくる専用の部屋)



放射性同位元素と化合物を合成して ^{18}F -FDGなどの体内に投与する薬剤を作ります。薬剤は品質検定を行い、品質・有効性・安全性を確保します。

放射性薬剤投与機(M130)



^{18}F -FDGの投与は放射性薬剤投与機を用い、処置室内で投与します。

それまでは、妊婦や乳幼児には近づかないでください。また、この薬剤は尿から体の外に排泄されます。トイレの後には必ず手を洗うようにしてください。

MRI検査を受ける患者さんへ

中央放射線部

当院のMRI検査室では、頭部から下肢まで全身の様々な画像診断を行っております。MRI検査を安全に受けていただくために、MRIの簡単な仕組みと、注意点についてご説明いたします。

MRIはMagnetic Resonance Imagingの略で磁気共鳴画像といいます。強力な磁石のトンネルの中に体を入れ、ある周波数の電磁波を照射します。すると体内の物質から様々な周波数の電磁波が返ってきます。この現象を核磁気共鳴現象といいます。その電磁波をコイルで受信し、コンピューターを使って解析すると、体の様々な断面像が作成されます。



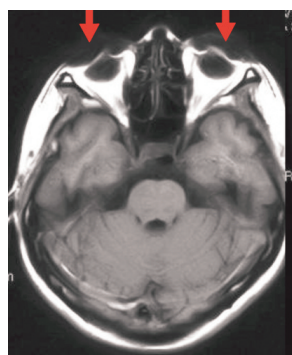
このようにMRI装置では、強力な磁石と電磁波を使用しているため検査の際に気をつけなければならないことがあります。

当院のMRI検査では現在1.5T(テスラ)の装置を2台使用しております。テスラとは磁石の強さの単位で、1.5Tとなると患者さん用ベットや車椅子、酸素ボンベなど磁石に引き寄せられる金属製品は簡単に飛んで行き、もし中に人がいれば大変な事故になってしまいます。また、金属製品は画像を乱す場合や、電磁波により発熱し火傷をする恐れがあります。当院では検査を受ける方には検査着に着替え、取り外しのできる金属製品はすべて外していただいております。

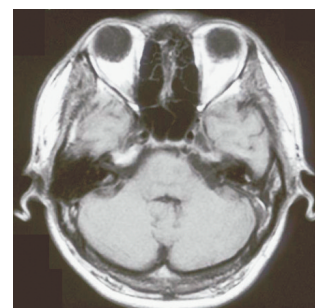


財布、アクセサリ、携帯電話、腕時計、金具の付いた下着、入れ歯など、ラメ入り化粧品、アイシャドウ、マスカラなどは金属が含まれている場合がありますので検査前に落としていただくことがあります。車椅子、ストレッチャーなどはMRI専用の物に移っていただいております。

マスカラによる画像の歪み（赤矢印）



正常



MRI検査では、電磁波により体がポカポカ温かく感じる場合があります。体格や検査内容によっては汗をかく場合もあり、もし暑くて我慢できない時や、局所的に火傷の様な痛みがある場合はすぐにお知らせ下さい。

体内に、心臓ペースメーカー、人口内耳が埋め込まれている方は強い磁場、電磁波により壊れてしまうため検査が受けられません。また、体内にクリップ、コイル、人工関節など金属が入っている方は材質によっては検査を受けられないので事前にご相談ください。

検査前には、問診と検査の説明をさせていただきます。不安な点は何なりと担当スタッフにご相談下さい。

MRI検査は被爆の心配が無く、注意を守れば安全で大変有益な検査です。ご理解、ご協力をお願いいたします。

地域の医療機関の機能についてご存知ですか？

医療機関には様々な役割や機能があります。前回の「救急医療を提供する病院」に引き続き、今回はシリーズの第三回として「療養病床を有する病院」についてご紹介します。

その3

◎「療養病床を有する病院」について

「食事がとれなくて、当分の間点滴が必要になった」「脳梗塞で寝たきりになってしまった」など、治療により病状は安定したものの、点滴や酸素吸入、痰の吸引などの医療処置が必要な方や、おむつ交換や食事介助等多くの介助が必要な方が入院する病院です。

療養病床を有する病院は、大きく分けると「医療療養型病床を有する病院」「介護療養型病床を有する病院(介護療養型医療施設)」の2種類があります。右記の表は、その特徴を示したものです。

突然の病気や事故により、入院や自宅での生活を続ける中で不安や戸惑いを感じるがあると思います。

総合相談センター・がん相談支援センターでは、患者

総合相談センター・がん相談支援センター

表：療養型病床を有する病院の特徴について

名 称	特 徴
医療療養型病床を有する病院	24時間点滴が必要な方、頻回な痰の吸引が必要な方、気管切開をしている方、感染症の治療をしている方など、医療処置が多く継続的に療養が必要な方を対象とした病院
介護療養型医療施設 (但し、2011年度末で廃止)	介護保険で利用できる施設の1つで、介護保険の施設サービス計画に基づく、医学的管理下での介護が必要な方(要介護1～5)を対象とした病院

*参考資料「医療福祉総合ガイドブック2007年度版」 医学書院

さんやご家族が安心して療養生活を送ることができるよう、医師、看護師、薬剤師、理学療法士などの院内の様々な職種のスタッフや地域の各関係機関と連携を図りながら、その方に適した療養先を患者さんと共に考えていく支援をしております。

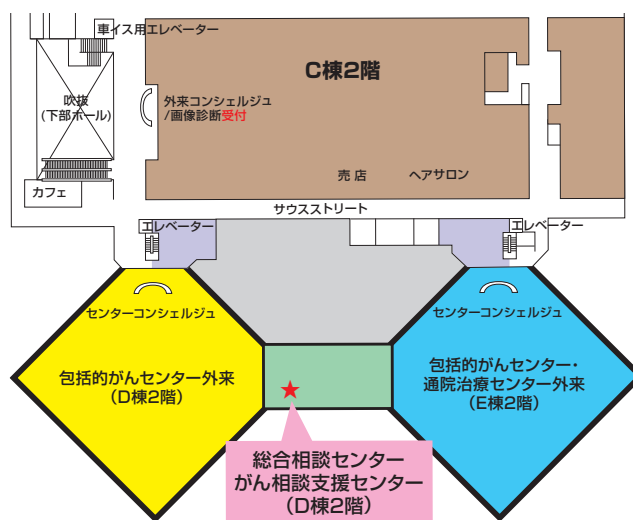
どうぞお気軽にご相談下さい。

訪問教育の集団での授業が始まりました

4月8日に当院の会議室にて、埼玉県立日高特別支援学校の訪問教育の始業式が行われました。始業式の後には子どもたちがお互いに自己紹介をして歌やゲームを楽しみ、友だちづくりのきっかけになりました。

昨年度までは、日高特別支援学校の先生方が入院中の子どもたちを訪問し、個別に授業を行って下さいました。当院の小児患者の人数が増えたので、今年度から集団で訪問教育を行うことになり、4月現在、小学部4名、中学部1名の子どもたちが授業を受けています。

訪問教育を担ってくださる先生方のご尽力に深く感謝申し上げます。



相談センターをご利用いただくには…

◇ 総合相談センター、がん相談支援センターで相談日時をご予約下さい。また、医師、看護師、各コンシェルジュにお声掛けいただいても構いません。
TEL.042-984-4106 (総合相談センター直通)
TEL.042-984-4329 (がん相談支援センター直通)
場所：D棟2階

検査項目について

中央検査部

前号に引き続き、生化学検査の臨床的意義についてお知らせ致します。生化学検査は、血液や尿に含まれている化学物質を測定し、身体の状態、病気の診断や治療効果の判定を行っていますが、今回は脂質、電解質、糖尿病検査などを紹介します。検査詳細情報の項目名は、診察時に印刷してお渡しする検査結果報告書に記載されている名称です。また、検査結果はあくまでも診断の補助や経過観察の指標であり、臨床症状やその他の検査結果と合わせて総合的に判断を行います。



血糖、ヘモグロビンA1Cを測定する装置で1時間に約180テスト測定することができます。

検査詳細情報 (患者さんにお渡しする検査結果項目)	名 称	臨 床 的 意 義
トリグリセライド	中性脂肪	動脈硬化の危険因子です。食事の影響を受けて食後は高値になるため、採血は空腹時に行います。
総コレステロール	総コレステロール	細胞膜、ホルモン、胆汁酸の原料ですが、慢性的な摂取過剰などにより高値になると動脈硬化の危険因子となります。
HDL-コレステロール	HDL-コレステロール(高比重リポ蛋白-コレステロール)	HDLというリポ蛋白の粒子に含まれるコレステロールです。一般に善玉コレステロールと呼ばれ、低値は動脈硬化の危険因子です。
LDL-コレステロール	LDL-コレステロール(低比重リポ蛋白-コレステロール)	LDLというリポ蛋白の粒子に含まれるコレステロールです。俗に悪玉コレステロールと呼ばれ、高値は冠動脈疾患の危険因子です。
ナトリウム	ナトリウム	細胞の浸透圧を保ち、細胞内外の水分調整などを行っています。不足すると脱水症状、慢性的摂取過剰で高血圧の原因となります。
カリウム	カリウム	ナトリウムの排出を促進して、血圧を下げる作用があります。不足すると不整脈、夏バテなどの原因の一つになります。
クロール	クロール	酸塩基平衡異常の診断に有用な検査です。血液中の代表的陰イオンでNaと共に測定し両者のバランスにより診断します。
マグネシウム	マグネシウム	カルシウムと共に骨の構成成分であり、種々の酵素の補助因子として作用し、生体代謝調節に重要な役割を担う必須微量元素です。
カルシウム	カルシウム	骨代謝だけではなく筋収縮、血液凝固にも必須な物質です。副甲状腺ホルモン、ビタミンD等が血中濃度を厳密にコントロールします。
無機リン	無機リン	副甲状腺ホルモンおよびビタミンDにより調節される生体内の重要な無機物で、カルシウムと共に骨の重要な構成成分です。
総ビリルビン	総ビリルビン	ヘモグロビンやポルフィリン体の分解産物です。総ビリルビンとその分画は、肝疾患の診断、黄疸の鑑別に有用です。
直接ビリルビン	直接ビリルビン	肝臓でグルクロン酸抱合を受けたビリルビンです。総ビリルビンとともに、肝疾患の診断、黄疸の鑑別などに重要な検査です。
CRP	C反応性蛋白	代表的な急性相反応物質です。炎症性疾患や体内組織の崩壊がある場合に血中で増加し、炎症マーカーとして用いられます。
血糖	血糖(グルコース)	「血糖値」と呼ばれ、糖尿病の基本的な検査です。食事の前後で変動が大きいため、空腹時で126mg/dl以上は糖尿病を疑います。
ヘモグロビンA1C	ヘモグロビンA1C	糖が非酵素的に結合したヘモグロビンです。糖尿病患者における過去1～3カ月の長期血糖コントロールの指標です。
鉄	鉄	酸素を運ぶヘモグロビンの構成成分のひとつで貧血の原因を調べる場合などに検査します。欠乏すると鉄欠乏性貧血をきたします。
フェリチン精密測定	フェリチン	鉄の貯蔵や血清鉄濃度の維持を行う蛋白で、鉄の貯蔵状態を反映します。また、炎症反応や悪性腫瘍のマーカーとしても有用です。

血液浄化部「透析室」が開設されました

血液浄化部部長 高根 裕史



平成21年3月5日、埼玉医科大学国際医療センター血液浄化部・透析室が開設され、同日丸木清浩理事長により竣工記念テープカットが執り行われました。A棟1階・救命救急センターICU向かいに完成した透析室には、多人数用透析液供給装置と透析機5台を設置しています。内装には北海道の風景も描かれており、患者さんがリラックスして透析治療を受けられる空間となっています。透析治療件数も一日2クール体制で以前の6件から10件へと大幅に増加しました。これにより病床数増加に伴う入院透析件数の増加に対応することも出来るのではと考えています。また、埼玉県災害拠点病院として災害時における透析医療にも対応できる体制が整いました。

慢性透析療法を実施している患者数は27万人を超え、高齢化、糖尿病性腎症の増加から合併症が多くなっていますが、透析患者の合併症を治療する施設



はほとんどないのが現状です。包括的がんセンター、心臓病センター、救命救急センター、臓器移植センターを有する病院は全国的にみてもほとんどなく、今後も合併症を抱えた慢性透析患者の入院増加が予想されます。それらに対応すべく埼玉医科大学病院血液浄化部・腎臓内科と密に連携し対応していく所存です。

6階から患者さんを救出！

事務部総務課

国際医療センターでは、地元埼玉西部広域消防本部（日高分署）の支援受けて、今年最初の「防災避難訓練」を実施しました。

今回の訓練の特徴は、火災発生場所が当センターの6階スタッフルームから出火したことを想定した総合訓練です。

第一発見者である看護師が自身の携行した「PHS」で直ちに“119番”（消防本部）に通報し、名称、住所、火災階、負傷者数などの詳細を知らせることになりました。同時に院内防災センターにも同様の通報し、院内はいっきに火災モードとなりました。

院内通報で駆け付けた職員は直ちに、消火班、誘導班、搬送班などに分担され、火元に対して消火栓や消火器を使っでの消火訓練を実施しました。

1名の負傷者に対しては搬送班が担架を使って6階から地上への救出訓練が実施されました。階段から避難できなかった15名は6階ベランダから救助袋を使って一人ずつ脱出し、取り残された3名は、消防署のはしご車を使って6階からの緊急脱出を行い、いず

れも無事救出することができました。

訓練終了後、消防分署長からの講評として、「火事を発見したらまず大声であたり知らせ応援を求めること」、「火炎が天井まで達したら消火を止め、即避難することが大事であること」が述べられました。

国際医療センターでは今後も年2回の“防災訓練”を実施し、日頃から防火・防災の意識を高めて「より安全な病院」を目指していきたいと思ひます。



ラーニングセンター（患者図書室）～みんなの医療情報AからZまで～ リニューアルオープンしました！

『NPO 医療の質に関する研究会』（理事長 日野原 重明 聖路加国際病院名誉院長・同理事長）の協力を得て、ラーニングセンターが去る3月24日（火）にリニューアルオープン致しました。

ラーニングセンターとは、病気や治療に関することを患者さんやご家族が、本やDVD、インターネットを使って自ら調べ、理解を深めるためのお手伝いをする図書館です。今回のリニューアルに際し、蔵書が約600冊増え、合計約1,500冊になり、更に皆さんに提供できる情報が充実致しました。ご自由にお持ち帰り頂ける病気・治療に関する様々なリーフレットやパンフレットも400種類ございます。またインターネットが使えるパソコン（3台）では、「デジタルAZ君」という医療に関するサイトを集めたオリジナルリンク集を使って医療情報の検索をして頂けます。患者さんご自身はもちろん、患者さんのご家族にもご利用頂けます。

また、これまではラーニングセンター内での閲覧



のみでしたが、入院患者さんには「1回1冊1週間」で貸出しを開始致しました。病室でゆっくり御覧頂けます。是非一度ラーニングセンターにお立ち寄り頂き、ご活用下さい。

ラーニングセンター（患者図書室）

場 所：C棟3階

利用時間：月曜日～金曜日

9:00～12:00 13:00～16:30

（土曜日・日曜日・祝日及び不定期の休館あり）

ラーニングセンターに対する「利用者の声」（4月）

書籍の冊数が増え、入院患者さんへの貸出しも行うなど、利用者への利便性が増してきたことについて、アンケートを積極的にお願ひしましたところ、多数の声が寄せられました。

（全体的なもの）

- ・ 資料が豊富で素晴らしいと思いました。各疾患別に並んでいて分かりやすく、患者や家族が調べやすくなっているのは、とても良いことだと思います。
（包括的がんセンター・入院・ご家族・女性・40代）
- ・ がんの知識を増し加えるために。静かで学習できる雰囲気が良い。呼び出し機も電波が届くので安心して居られます。
（包括的がんセンター・外来・患者さん・女性・50代）

（パソコン&プリントサービスについて）

- ・ 頭蓋内咽頭腫瘍で家族が入院します。その前に病気を調べるために立ち寄りしました。書籍でもパソコンでも調べられ、コピーも取れることを知り、素晴らしい施設だと思いました。入院したら、ぜひ利用させていただきます。
（包括的がんセンター・外来・ご家族・女性・30代）

（書籍の貸出しについて）

- ・ 入院治療にさいしての参考資料を閲覧に来ました。一週間の本の貸出しは有難いです。読みやすい資料も多くそろっていて便利です。

（包括的がんセンター・入院・患者さん・男性・50代）
（パンフレットについて）

- ・ 現在、家族が心臓の手術を受けています。糖尿病も持っているので、術後の参考になる本を探しに来ました。役に立つパンフレット（糖尿に限らず、様々なもの）が豊富にあるのに驚きました。持ち帰って参考にしたいと思います。

（心臓病センター・入院・ご家族・男性・70代）

- ・ 脳腫瘍の知識、術後の生活、医療費などを調べに来ました。高額費医療制度のパンフレットが役に立ちました。有難うございました。

（包括的がんセンター・入院・ご家族・女性・40代）

- ・ あす退院するため、リンパ節の病気に関する情報を集めに来ました。持ち帰れるパンフレットがたくさん揃っていて有難いと思いました。すばらしい施設です。

（包括的がんセンター・入院・ご家族・男性・50代）

（蔵書に関する意見）

- ・ 医学・医療関係の本が身近にあることは、患者本人にも家族にも、とても有意義だと思います。先生のお話はもちろん大切だけど、自分で知ること必要だと思うから。でも、できれば一般の図書もあればベターかな……。

（包括的がんセンター・入院・患者さん・女性・40代）

市民公開シンポジウム「命の贈り物：献腎の推進を願って」

学校法人埼玉医科大学 専務理事 尾本 良三

平成21年2月7日(土)浦和市のロイヤルパインズホテルにて上記シンポジウムが開催されました。

慢性透析患者数は全国で27万人を超えています。一方、移植希望登録者数は2007年で12,046名で、実際に腎移植が行われたのは1,217例という少なさです。埼玉県では、腎移植希望登録者数は2008年7月で620名（男412名、女208名）ですが、2007年度の献腎は1件のみです。わが国における臓器提供のレベルは世界と比較して著しく低く、埼玉県は大変に残念ですが他の都道府県に比べてさらに低調です。

平成20年10月に埼玉県腎・アイバンク協会の設立20周年を迎えましたが、今回の市民公開シンポジウムは、それを記念して埼玉県、埼玉県医師会などの後援を受けて計画され、埼玉医科大学国際医療センター・臓器移植センターがその実施のお手伝いをさせて頂きました。埼玉県内の腎移植希望登録者が実際に腎移植を受けるためには、埼玉県内での腎の提供を増やすことが最善策です。献腎移植を受けるための待機期間は、平均14年。献腎移植を希望する患者さんにとっては大変に苦しい現実です。

埼玉医科大学病院では1987年に第1例目の生体腎移植を実施しました。その後も腎移植は継続して実施されていますが、成績は良好です。埼玉医科大学病院から国際医療センターへ移植チームが異動したので、現在ではもっぱら国際医療センターで実施しています。1987年から2008年までの21年間に、

139例の腎移植を実施しましたが、その内訳は生体腎（親子・同胞間）101例で、献腎は38例でした。腎移植を受けた患者さんのQOLは慢性透析の時とは大きく異なり、ほとんど普通の方とあまり変わらない普通の日常生活をエンジョイ出来るので、その喜びは大きいです。今後「命の贈り物：献腎の推進」について広く県民の皆様の良き理解が得られることを強く願っております。

お問い合わせ：

埼玉医科大学国際医療センター・臓器移植センター
TEL：042-984-0298／FAX：042-984-0122



「乳がんを理解する・乳がんには負けない」が開催されました

第3回市民公開がん医療講座のご報告

乳腺腫瘍科 藤内 伸子

平成21年4月18日（土）、第3回市民公開がん医療講座「乳がんを理解する・乳がんには負けない」が開催されました。この講座は、乳腺腫瘍科が企画し、国際医療センター職員と共催各機関による運営にて行われました。日高キャンパス内の創立30周年記念講堂に約600名という多数の参加者が集まり、一緒に楽しい有意義なひとときを過ごしました。

第一部では、四国がんセンター名誉院長の高嶋成光先生に乳がんの基礎知識と検診の大切さについてご講演いただき、そして乳がん体験者であるタレントの山田邦子さんには体験談を通して参加者を励まし勇気づけていただきました。さらにコンサートの部では、乳がん体験者のソプラノ歌手筒井一二三さんと、ピアニスト影山順子さんに歌のプレゼントをしていただきました。第二部の乳がんケア相談会では、看護師・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカーから、希望者に対し個別相談を行いました。

ご参加者いただいた皆さんから大変ご好評をいただき、企画側としてとても嬉しく思いました。この場をお借りして、ご協力いただいたスタッフの皆さん、そして何よりご参加くださった皆さんに深く御礼申し上げます。

第3回 市民公開がん医療講座

乳がんを理解する・乳がんには負けない

日時：2009年4月18日（土）
第1部 10:00～12:30（開場9:30） 第2部 12:40～13:40
会場：埼玉医科大学日高キャンパス創立30周年記念講堂
埼玉県日高市山根 1397-1

プログラム

第1部

- 10:00～10:05 開会挨拶
埼玉医科大学国際医療センター 病院長 松谷 雅生
- 10:05～10:35 基調講演
司会：埼玉県立がんセンター 副病院長 田部井 敏夫 さん
講演：独立行政法人国立病院機構四国がんセンター 名誉院長 高嶋 成光 さん
「乳がんをもっと知ろう」
- 10:40～11:40 講演
司会：埼玉医科大学国際医療センター 乳がん看護認定看護師 小島 真奈美
講演：山田 邦子 さん
「大丈夫だよ、がんばろう！」
- 11:45～12:25
「春のコンサート ～春の風に思いをのせて～」
①元気の出る歌 ソプラノ歌手：筒井 一二三 さん／ピアニスト：影山 順子 さん
②みんなで歌おう 参加者全員
- 閉会挨拶
埼玉医科大学国際医療センター乳腺腫瘍科 佐伯 俊昭

第2部

- 12:40～13:40
乳がんケア相談会 会場：埼玉医科大学日高キャンパス創立30周年記念講堂・講義室
看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー、乳がん体験者による相談会（当日予約、先着20名）

共催：埼玉医科大学国際医療センター、埼玉BCN研究会、中外製薬（株）、サノフィ・アベンティス（株）、ノバルティス ファーマ（株）
後援：あけぼの会埼玉支部、やまぶきの会 ※埼玉県地域がん診療拠点病院教育・研修会として開催いたします。



祝 全国非血縁骨髄移植1万例、さい帯血移植5千例到達!

～センター玄関に記念植樹を行いました～

造血器腫瘍科 川井 信孝

骨髄バンク、さい帯血バンクネットワークはそれぞれ平成3年と同11年に設立され、善意の方々からの骨髄やさい帯血の提供を血液疾患の患者さんに仲介することにより数多くの命を救ってきました。現在、国内で行われた非血縁骨髄移植が1万例に、さい帯血移植が5千例に到達したことを記念し、骨髄バンク推進連絡会による全国記念植樹キャンペーンが各地で展開されています。4月4日、国際医療センターでは正面玄関の芝生内に福祿寿(八重桜)の苗木を記念植樹いたしました。植樹会は骨髄バンクを介して当センターで移植を受けた患者さん、骨髄を提供して頂いたドナーさん、骨髄バンクならびに骨髄バンク推進連絡会の方々にもご参加いただき盛大に行うことができました。それぞれの立場から願いを込めて植えられた樹は、きっと大木に成長し国際医療センターを訪れる全ての患者さんを見守り続けてくれることと思います。

造血器腫瘍科では、これまでに骨髄バンクを介した骨髄移植を48例、さい帯血移植を7例、骨髄バンクドナーからの骨髄採取を55例行っています(埼玉医科大学病院血液内科からの例数)



植樹に参加していただいた患者さん(元)とドナーの方
奥右から2番目は全国骨髄バンク推進連絡会会長の太谷貴子さん

紹介・予約制について

医務課

当センターは紹介・予約制です

- ①紹介状
 - ②事前の予約
- が必要です

【外来予約センター】

心臓病・脳卒中センター	042-984-0474
包括的がんセンター	042-984-0475
通院治療センター	042-984-0475

面会について

医務課

【面会時間】

(平日) 午後1時 ～ 午後8時
(土・日・祭日) 午前11時 ～ 午後8時

上記時間以外のご面会はお断りしております。

【面会受付】

C棟1階総合コンシェルジュにて受付をし、面会証をお受け取り下さい。

- * ICU集中治療室等は、面会時間が別に指定されておりますのでご確認ください。
- * アレルギーや香りに敏感な患者さんもいらっしゃいますので、お花はご遠慮下さい。

- * 小学生以下(12歳未満)のお子様の面会をご遠慮いただいております。



埼玉医科大学国際医療センターニュース

March 2009 第9号【院内配布用】

編集・発行 埼玉医科大学国際医療センター総務課

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根1397-1

TEL：042-984-4128

FAX：042-984-0432

発行責任者 松谷 雅生

発行日 平成21年5月20日

※本紙記載の写真・記事の無断転載および、複写を禁じます。